

【 水産林務部所管分 】

平成28年第1回北海道議会定例会〔一般質問〕開催状況

開催年月日 平成28年3月10日(木)

質問者 民主党 広田 まゆみ 議員

答弁者 高橋知事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 人口減少時代の産業振興、地域振興のあり方について</p> <p>(四) 北海道森林づくり条例について</p> <p>次に、今定例会において改正が提案されている北海道森林づくり条例についてですが、この条例は、1000年という時間軸を条例の前文に言及している条例であり、私は、北海道の価値につながるものとして、今後とも大切に受け止めています。</p> <p>今回の条例は、森林資源の循環利用の促進や地域材の利用促進などに、道として、必要な措置を講ずるための条例改正と承知をしています。</p> <p>しかし、これらのことは、条例改正前から、地域の森林事業者や木材産業の関係者の努力により、基本計画に基づき、目標設定を行い、取り組みを進めてきたものと承知をしています。</p> <p>オリンピック、パラリンピックにおける道産木材使用など、機運の高まりを契機として、それが、ただの上滑りにならないように、これまで、財政的な制約から限界があった、道有施設における道産材の活用などをはじめ、道としてより高い目標設定が求められると考えますが、条例改正を契機として、今後、どのように取り組みを推進されようとしているのか、知事の所見を伺います。</p>	<p>○高橋知事</p> <p>森林づくり条例の改正と今後の取組についてですが、道では、近年、カラマツなどの人工林が利用期を迎え、道産木材への需要が高まっている中、林業や木材産業の成長産業化を図り、森林資源の循環利用を確立していくことを柱に北海道森林づくり条例を改正したいと考えているところであります。</p> <p>道といたしましては、今後、条例改正に伴う北海道森林づくり基本計画の改定に際し、道産木材の供給率の向上などの指標を検討するとともに、新たな建築材料であるCLTの普及と定着、さらには、道立施設をはじめ公共建築物の木造化や木質化を進め、林業、木材産業の健全な発展が図られ、かけがえのない貴重な財産である豊かな森を世代から世代へと引き継いでいくことができるよう、百年先を見据えた森林づくりを着実に進めてまいる考えであります。</p>